

# 北海道環境白書 '19



<表紙写真>

## 「雪解け始まる屈斜路湖に輝く流れ星」

「第31回 星空の街・あおぞらの街全国大会」は2019年8月3日、4日に大気環境の保全に対する意識を高めること、郷土の環境を活かした地域おこしの推進に役立てることを目的に環境省、北海道、「星空の街・あおぞらの街」全国協議会の主催で高円宮妃殿下ご臨席の下、弟子屈町で開催されました。

本写真は全国大会に合わせて開催された「第10回弟子屈フォトコンテスト」において、入選された屈斜路湖湖畔を題材にした作品になります。

(撮影者：佐藤章氏)

<裏表紙>

## 北海道内のコンビニエンスストアにおけるレジ袋削減の呼びかけ

北海道の皆さんがプラスチックとの賢い付き合い方を考えるきっかけとなるように、北海道、札幌市、一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会と連携して、道内の同協会加盟コンビニエンスストア4社の店舗レジに、レジ袋受け取り辞退を促すポップ（表示）を設置し、レジ袋が不要な場合は受け取らないように呼びかけています。

(写真：呼びかけ用ポップ)

---

環境白書についてのお問い合わせは、北海道環境生活部環境局環境政策課へご連絡ください。

T e l 011-231-4111 (代表) 内線24-205

011-204-5188 (直通)

F a x 011-232-1301

U R L <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ksk>

E-Mail [kansei.kankyoku@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:kansei.kankyoku@pref.hokkaido.lg.jp)

---

# 環境白書の刊行に当たって



北海道は雄大で変化に富む山々、広大な森林や湿原、湖沼等が織りなす美しい大地とそこに暮らす野生生物などの豊かな自然環境に恵まれており、これらは本道の主要な産業である農林水産業はもとより世界に誇る「食」や「観光」を支える基盤となっています。

しかし、本道の環境を取り巻く状況は常に変化しており、様々な問題が生じています。

例えば、記録的な猛暑や低温、台風や梅雨前線の停滞などによる大雨など、本道はもとより全国的に多発している異常気象は、地球温暖化による気候変動の影響とも指摘されているほか、海洋プラスチックごみによる環境汚染は国際的にも懸念されています。

こうした地球規模の課題がある一方で、ヒグマの人里への相次ぐ出没による人身事故の不安、急増したエゾシカによる農林業被害の発生といった野生動物とのあつれきなど、地域的な課題も大きな社会問題となっています。

このような環境問題に対応するため、道では様々な施策に取り組んでいます。

人類が直面している重大な問題である気候変動への対策については、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和」と併せ、既に現れている、あるいは中長期的に避けられない影響を回避・軽減する「適応」の取組を進めるため、「北海道における気候変動の影響への適応方針」を平成30年（2018年）9月に策定しました。

また、プラスチックごみ対策として、従来から取り組んでいる3R（リデュース、リユース、リサイクル）の一層の推進に加え、道民の皆様に向けて「使い切り」（いわゆるワンウェイ）のプラスチック製品はできるだけ使用しないことなど“プラスチックとの賢い付き合い方”に関するメッセージを令和元年（2019年）10月に発出しました。

さらに、野生生物とのあつれきに関して、ヒグマの出没時に市町村等が必要な対応ができるよう「ヒグマ出没時の対応方針」を平成30年（2019年）3月に策定するとともに、エゾシカの一層の捕獲推進や食肉利用拡大に向けた取組などを進めています。

本道の豊かな環境を守っていくことは、持続可能な地域社会づくりに欠かせない取組であり、今後とも積極的に推進していく必要があります。そのためには行政のみならず、事業者や道民の皆様一人一人が環境保全について自ら考え、行動していくことが何よりも重要です。

北海道の環境についての最新状況や道の施策などを取りまとめた本書が、皆様の環境保全に対する理解を深め、行動の一助となることを心から願っています。

令和2年（2020年）1月

北海道知事 鈴木 直道



この報告書は、北海道環境基本条例第8条の規定に基づき、道が令和元年第3回北海道議会定例会に報告した「令和元年 環境の状況等に関する年次報告」を基に作成しました。

平成20年(2008年)3月に策定(平成28年(2016年)3月改訂)した「北海道環境基本計画[第2次計画]」に沿った構成とし、本道の環境の状況や環境の保全等に関連する施策の進捗状況などを取りまとめています。

